

OB 通信

鳳 翩

復刊 28 号
=2022 年 8 月号=



【瑠璃光寺 五重塔】

山口大学ワンダーフォーゲル部 OB 会
鳳翩会

もくじ

				ページ
1	会長挨拶	鳳翩会会長	田村 伊正	1
2	総会案内	九州支部 支部長	龍 純二	2
3	2021年度事業報告と2022年度事業計画	副会長	三國 彰	5
	連絡事項（HP掲載受付窓口担当者変更）	鳳翩会会長	田村 伊正	6
	鳳翩会ホームページのご案内			
4	支部報告			
	関西支部 福知山線廃線敷ハイキング	関西支部 支部長	池田 純	7
	九州支部活動報告	九州支部 支部長	龍 純二	8
	東京支部 活動報告（コロナ禍を振り返りつつ）	東京支部 事務局	秋山 高弘	11
	山口支部活動報告	山口支部 支部長	坂田 信一	12
	新任挨拶	山口支部 支部長	坂田 信一	12
	新任挨拶	山口支部 支部幹事	川地 翔子	13
5	同期会だより			
	秋吉台長者が森付近トレッキング・長門及び萩市内散策(5月24日～26日)	S45 経済 九州支部	武富(伊藤) 敏夫	14
6	エッセイ			
	森の貴婦人・オオヤマレンゲ	S47 文理 山口支部	野村(内田) 英明	16
	庭の花	S51 農 九州支部	清家 和子	17
	瀬戸内海島めぐりサイクリングに思いをはせて	S57 理 山口支部	坂田 信一	18
	1970年3年生夏合宿飯豊連峰・朝日連峰縦走記	S47 文理 東京支部	恵谷 浩	19
	一坪（ひとつぼ）書庫	S49 教育 山口支部	石川 忠	20
	三条実美の鳳翩山登山	S52 経済 山口支部	古谷 眞之助	21
7	近況報告			
	江戸時代の遺産 筑後川・山田堰と大石堰	S42 経済 九州支部	秋山 邦雄	22
	孫娘と高尾山登頂	S47 文理 東京支部	恵谷 浩	24
	近況報告	S49 工 東京支部	高田 哲生	25
	近況報告	S54 文理 九州支部	桑江 保子	25
	飛べない渡り鳥（WV）	S41 文理 九州支部	加藤 征治	26
	近況報告	S60 農 山口支部	齊藤 昌彦	26
	南アルプスに焦がれて	S57 経済 九州支部	堀 剛	27
	近況報告	S48 経済 関西支部	上田 功	28
	私の近況報告	S52 経済 山口支部	古谷 眞之助	28
	近況報告	S47 工 東京支部	福永 俊美	29
8	現役報告	経済学部3年	主将 坂本 新	30
9	事務局長挨拶	人文学部4年	事務局長 籠 広二	31
10	OBの皆さまへのお願い	副会長	三國 彰	32
11	2022年本部・支部役員連絡先	副会長	田原 宏	33
	編集後記			

1. 会長挨拶

鳳翔会会長 田村伊正

鳳翔会会員の皆様におかれましては、例年に無い異常な天気の移ろう夏ですが、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、常日頃より、鳳翔会の運営に関しまして温かいご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

今年から、前任の古谷眞之助（前会長）さんから会長職を引き継ぎました工学部S53年卒の田村伊正です。新しい執行部は、三國（S55年・工卒）さんと田原（S57年・工卒）さんの2名の副会長と幹事5名、監査2名、そして現役4年生の籙（とうし）事務局長で構成することとなりました。更に、今後の世代交代や組織の活性化のためにも、山口支部と一体となった活動を展開して参りたいと存じます。皆様には本OB通信でご挨拶となりましたが、前任と同様にご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。（下表を参照）

一昨年来の新型コロナ感染禍の中、地区持ち回りの総会が2年連続して中止となり、会員相互の親睦や交流の機会を失ってしまう危機感が募っておりました。そのため、前執行部以来、OB通信を活用した紙面交流の充実化やWEBによる本部・支部役員の意見交換会を企画してまいりましたが、早期の対面した交流機会の再開に向けて模索が続いていました。各支部においては小グループの交流を模索していただいたり、同期会を企画していただいたり、独自のご努力を頂いています。

新型コロナの感染状況の変化や新たな感染対策への知見が示される社ようになり、漸く今回のOB通信で、九州支部の引き受けによる2022年度総会のご案内が出来ることとなりました。

適切な感染対策を考慮しながら企画を立案していただきました九州支部の皆様のご努力とご腐心に、改めて敬意と感謝を申し上げます。

しかしながら、新型コロナの感染リスクが残っており、感染状況の推移も予断を許さない状況でもありますので、変更や中止を排除することなく、九州支部を初め各支部の役員の皆様と緊密な連携を図ってまいりたいと考えています。皆様にはご理解を賜りたく存じます。

今年の夏は気候不順に加え異常気象も伴うようですので、皆様にはご健康に気を付けて頂き、元気に過ごされますことをお祈り申し上げます。（2022.7.7記）

【本部組織】

新役職	名前	卒年度	備考
会長	田村 伊正	S53	前副会長
副会長	三國 彰	S55	留任
副会長	田原 宏	S57	前幹事・前山口支部長
幹事（前会長）	古谷 眞之助	S52	
幹事（山口支部長）	坂田 信一	S57	留任
幹事	田中 秀平	S47	留任
幹事	石川 忠	S49	留任
幹事	斎藤 昌彦	S60	前監査役
幹事	浅野 哲郎	S61	留任
監査役	平野 展康	S59	留任
監査役	日野 耕二	S58	新任
事務局長	籙(トウシ) 広二	4回生	前主将

【山口支部組織】

新役職	名前	卒年度	備考
支部長	坂田 信一	S57	本部幹事
幹事	徳田 宏子	S57	本部活動に参画
幹事	川地 翔子	H26	本部活動に参画

2. 2022年度OB総会開催のご案内

九州支部長 龍 純二

拝啓、盛夏の候、OB会員の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。
コロナ禍のため、2020年、2021年と延期になっていましたが、今秋3年ぶりのOB総会が開催されることになりました。今年は湯布院で開催することになりました。山も温泉も観光もある湯布院で皆さまと再会できることを楽しみにしています。どうぞ、奮ってご参加下さい。

敬具

※出欠連絡 同封のハガキを9月10日(土)までに投函下さい。

記

1) 開催日時 2022年10月22日(土)～23日(日)

受付開始 15:00

総会 17:00～18:00

懇親会 18:00～20:30

2) 開催場所 総会・懇親会・宿泊場所:

「由布院倶楽部」

大分県由布市湯布院町川上 2952-1

TEL: 0977-28-2600

(JR 由布院駅から徒歩5分 / 湯布院 IC より車で 10分)

3) 参加費 @14,000円(宿泊+懇親会+朝食付き)

※宿泊は原則、洋室・和室とも3名入室です。

※宿泊については10月14日以降キャンセル料がかかりますので、
変更の際は、速やかにご連絡下さい。

4) 乗車券・航空券の手配について

今後のコロナ感染見通しは不透明であり、出欠のご連絡をいただいた後、コロナの感染状況などによっては、開催直前になってやむを得ずOB総会が中止になる場合があることをご承知おき願います。従いまして、遠路から参加を予定されている方は、その点を十分お含みおきいただき、乗車券・航空券の手配をされますようお願いいたします。

5) オプション

10月22日(土)

Aコース: 湯布院散策(行動時間: 約2時間)

観光馬車が通る田園風景の中を歩きます。

集合場所: 由布院倶楽部 ホテルロビー13:00

由布院倶楽部～宇奈岐日女神社～金鱗湖～湯の坪街道～由布院倶楽部

ホテル着 15:00頃

10月23日(日)

Bコース：飯盛(いもり)ヶ城登山(歩行時間：約2時間半、高度差300m)

由布岳の麓に美しくそびえる草原状の山、頂上から湯布院盆地が一望できます。

集合場所：ホテルロビー 8:50 9:00 出発 9:13 由布見通りバス停～9:25 由布登山口
～11:00 飯盛ヶ城頂上～12:30 由布登山口 (登山口まで路線バス利用¥330)
(別府方面 12:40 由布登山口～13:30 別府駅)
(大分空港行き 14:00 別府北浜～14:50 大分空港)
(湯布院方面 12:33 由布登山口～12:48 由布院駅前 BC)

Cコース：由布岳山麓ハイキング(歩行時間：約1時間半)

由布岳の麓に広がる草原を散策します。(Bコースの途中まで一緒に歩きます。)

集合場所：ホテルロビー 8:50 9:00 出発 9:13 由布見通りバス停～9:25 由布登山口
～11:00 由布登山口 (登山口まで路線バス利用¥330)
(別府方面 11:25 由布登山口～12:15 別府駅)
(大分空港行き 12:27 別府駅前～13:23 大分空港)
(湯布院方面 11:33 由布登山口～11:48 由布院駅前 BC)

Dコース：鶴見岳ハイキング(ロープウェイ利用)(歩行時間：約30分)

別府高原駅から10分で鶴見山上駅まで、山頂まではあと15分。

ロープウェイ運賃：往復1600円(シニア割引(70歳以上)100円引き 年齢を証明できるものを提示、JAF 割引100円引き、会員証提示で会員含め5名まで利用可能、他の割引との併用不可)

集合場所：ホテルロビー 8:50 9:00 出発 9:13 由布見通りバス停～
9:38 別府ロープウェイ～10:00 別府高原駅～10:10 鶴見山上駅 11:00～11:10 別府高原駅
(別府ロープウェイまで路線バス利用¥640)
(別府方面 11:38 別府ロープウェイ～12:15 別府駅)
(大分空港行き 12:27 別府駅前～13:23 大分空港)
(湯布院方面 11:20 別府ロープウェイ～11:48 由布院駅前 BC)

Eコース：由布岳東峰登山(健脚のみ)(歩行時間：約5時間、高度差800m)

集合場所：ホテルロビー7:50 8:00 出発(九州支部メンバーの車)～8:15 由布登山口
8:30 由布登山口～11:30 由布岳東峰山頂 11:50～14:30 由布登山口
(別府方面 14:50 由布登山口～15:40 別府駅)
(大分空港行き 16:10 別府北浜～17:00 大分空港)
(湯布院方面 14:58 由布登山口～15:13 由布院駅前 BC)

6)湯布院への行き方

関東から

飛行機：羽田空港～大分空港

空港特急バスエアライナー 大分空港～由布院駅前 BC (大分交通) 55分
¥2,600.- (2枚券) 1日6便

関西から

新幹線：新大阪～小倉

JR 小倉～別府 約1時間20分 特急「ソニック」 2枚きっぷ(指定席) ¥6,600.-

路線バス：別府～由布院駅前 BC (亀の井バス) 70分 ¥940.-

博多から

JR 博多～由布院 (久大線経由) 2時間 10分

特急「ゆふ」 「ゆふいんの森」 ¥5,190.- 片道 (指定席)

高速バス：天神BT、博多BT、福岡空港～由布院駅前BC (ゆふいん号)

1日7便 2時間20分 ¥5,760.- (2枚回数券)

フェリー

大阪港～別府港、神戸港～大分港 (さんふらわあ)

徳山港～竹田津港 (スオーナダフェリー)

7) その他

現在、県民割等の旅行支援策が実施されていますが、10月のOB総会時点の実施状況は不透明です。その時点で県民割等の旅行支援策が実施されている場合は、割引額の総額をOB総会出席者人数に応じて皆さんへ還元しますので、予めご了承下さい。

8) 連絡先

九州支部事務局長 天野 雅紀 (携帯：080-4278-2048)

九州支部長 龍 純二 (携帯：080-5883-7791)



飯盛ヶ城

由布岳



鶴見岳山頂からの展望 【鶴見岳ロープウェイHPより】

3. 2021年度事業報告と2022年度事業計画

副会長 三國 彰

【2021年度事業報告】

2021年度（2021年1月1日～2021年12月31日）の事業報告と、併せて会計則第3章の規定に基づき、2022年1月1日から6月までの事業について報告します。新型コロナの感染対策としての自粛要請等により、団体としての集会に慎重な姿勢が望まれている中、Webによる会議開催や書面による連絡が運営の主流となりました。ワクチンの接種は進んでいるようですが、依然として感染の推移は予断を許さない状況にあり、今後の行事予定に多くの変更が生じることが予想されます。

①2021年度事業報告

(1)OB通信の1回発行

- 1)8月号の発刊
- 2)総会中止による総会の書面決議の通知
- 3)総会の中止に伴い12月号の休止
- 4)8月号を54ページに及び特集号として編集

(2)山口大学ワンダーフォーゲル部に対する支援

- 1)卒部生歓送会への記念品贈呈（真空断熱タンブラー）
- 2)現役支援金の授与

(3)役員会等の開催

- 1)役員会3回（2月20日、3月9日Web会議、5月12日Web会議）
- 2)本部役員・支部長会議（5月26日：Web会議）会誌、総会についての審議
- 3)2020年度会計監査2021年2月20日監査役：斎藤昌彦、平野展康
- 4)次期会長選考委員会の設置（総会が中止の為、8月発行会誌にて会長承認手続き）

(4)2021年総会の中止決定

- 1)九州支部で予定された2021年総会を中止し、2022年総会を九州支部で開催に変更。
- 2)審議項目の2021年度会計決算報告、2021年度会計監査報告、2020年度事業報告と2021年度事業計画、次期会長選任について、書面決議にて承認。

(5)OB通信（会誌）の発行

- 1)8月号の発刊。2020年と同様の書面決議事項と特集の企画。
- 2)12月号休止

(6)山口大学ワンダーフォーゲル部に対する支援

- 1)海浜合宿の支援は感染対策状況により中止。

②2022年度上期事業経緯報告

新型コロナ感染症対策が必要となり、ほとんどの事業が中止となっていましたが規制緩和により徐々に活動ができるようになってきました。大学においても7月の海浜合宿は許可され、実施することになりました。OB会活動においては総会に向けての考え方を共有するため、本部・支部合同Web会議を実施しました。Web会議では九州支部からの総会開催の意向を受け、本部・支部の了解を得ました。

(1)山口大学ワンダーフォーゲル部に対する支援

- 1)卒部生歓送会への記念品のみとし、激励訪問は中止
- 2)現役支援金の授与

(2)役員会等の開催

- 1)役員会2回（1月29日、6月6日Web会議）
- 2)本部役員・支部長会議（6月19日：Web会議）会誌、総会についての審議

- 3) 2021 年度会計監査 2022 年 1 月 29 日監査役：齋藤昌彦、平野展康
 (3) 2022年総会の実施予定
 2022 年総会を九州支部で開催予定とすることに決定。

③2022年下期の事業予定

- (1)OB通信（会誌）の発行
 1)8月号の発行（総会開催のご案内）
 2)12月号の発行（総会報告）
 (2)山口大学ワンダーフォーゲル部に対する支援
 1) 海浜合宿の支援（7月9・10日に実施）

以上



【 露山堂 】



【 十朋亭 】

連絡事項（HP 掲載受付窓口担当者変更）

鳳翔会 会長 田村伊正

鳳翔会執行体制変更に伴い、今後、鳳翔会 HP 掲載受付窓口担当者を以下のように変更いたします。つきましては、鳳翔会 HP に記事掲載を希望される場合は、田原副会長宛お送り下さい。ホームページ管理者への直接送付は出来ません。田原担当のチェック後に掲載されますのでご理解ください。

新担当 田原 宏 tahara55@rainbow.plala.or.jp

鳳翔会ホームページのご案内

鳳翔会 HP のアドレスは、<https://houben-kaisakura.ne.jp> です。「鳳翔会」で検索しても到達できます。是非、ご利用ください。

7/27 時点で以下の記事が掲載されています。

- 過去の OB 通信のすべて（初期の「鳳翔」1～3、「鳳翔」2000～2021 年版）
- 過去の部誌のすべて（初期の「鳳翔」「ときわ」「巖流」「あるきの記 1～24 号、特別号）
- 会員からの近況報告 7/27 時点で 72 編

4. 支部報告

関西支部 福知山線廃線敷ハイキング

関西支部長 池田 純 (S51 工)

関西支部では、コロナ禍のため 2019 年からほとんど活動できてなかったが、感染者は減らないもの巷ではその毒性を気にしなくなったご時世なので何かやろうと首記ハイキングを計画実施しましたので報告します。当支部も年々高齢化が進み、体力の問題で高低差が大きいコースは最近敬遠しております。このコースは鉄道の廃線敷跡のため高低差が小さく距離も半日コースで温泉も控えているので選択しました。

コース紹介：西宮市・生瀬から宝塚市・武田尾まで、約 5km にわたる荒々しい武庫川渓谷に沿って延びる武田尾廃線跡です。私が関西のとある会社に就職したのは昭和 52 年ですがこのころ福知山線は田舎のローカル線で尼崎から小編成のディーゼルカーがちまちま走っており、大阪から夜行急行（だいせん）が鳥取方面へでいたのでこの線は何度か利用したことがあります。宝塚から道場まで武庫川の渓谷沿いの線路は難所で景色は良いがトンネルやカーブの連続で速度が出せず昭和 61 年にトンネルで直線複線化された新線が完成、一気にスピードアップ三田方面のアクセスが格段に良くなった。本来不要となったこの旧線は朽ち果てる運命でしたが秘境のような景観と鉄道の遺構でハイカーに愛され訪れる人が多かった。本来立ち入り禁止区域だったのですが 2016 年に整備され自己責任を条件に一般開放され今に至っております。

さて新線付け替えに新しくできた西宮名塩駅に 6 月 25 日午前 10 時に集合、参加者は堺原さん、金子さん、そして私こと池田の 3 名。少なめですが関西の活動はこんなものです。駅には親切なことにガイドマップが常備されているが住民に配慮しているのか国道横の歩道を歩くようになっていくが、川に沿った静かな旧道を辿ることにした。廃線敷跡までは道標もしっかりしており迷うことはない。遠くに近代的な集合住宅をみることが出来る。廃線敷跡のスタート点は生瀬駅と西宮名塩駅の中間にあり、トイレが設置されている。そこから旧鉄道の廃線跡を歩くことになるがレールや大釘類は外されており、枕木の上面までガラスがまかれているので毛躰くことはない。ここから武庫川の渓谷美を眺めながら歩くが川中の巨岩がすごい。いくつか、名前がつけられているそうで一見の価値がある。川の景色も良いが廃線跡特有の鉄道遺構もよい。橋梁や各種標識や信号機の残骸が残っており鉄道ファンにはたまらない。極めつけはトンネルで都合 5 か所あり、いずれも照明はなく懐中電灯が必要です。福知山線は 100 年以上の歴史があるため、トンネルの壁面は現在ならコンクリートで施行されるところですが自然石または煉瓦で巻き上げられており、これを見るだけでも貴重な経験です。コースも終盤に近付くと赤く錆びた大きな橋梁を渡り、トンネルをくぐると本日の食事場所畑熊屋が見えてきました。

ジビエ料理の鹿肉、猪肉をあてにビールで完歩したことを祝杯、この年になると話題はどうしても健康問題になります。最後は武田尾温泉の日帰り入浴にて締め、なかなかよき一日でした。



九州支部活動報告

九州支部長 龍 純二

九州支部フリーミーティング

Zoom を使って昨年から続けている毎月のフリーミーティング、内容は近況報告、情報交換・雑談。

1月22日（土） 参加者7名：永沼、秋山、武富、木下、山本、権藤、龍

2月19日（土） 参加者4名：永沼、秋山、木下、龍

3月19日（土） 参加者3名：永沼、秋山、龍

4月からはOB 総会準備会として開催することにしました。

4月30日（土）平尾台下見

参加者7名：前原、岩本、山本、桑江、堀、前田、龍

今年のOB 総会候補地の下見1回目は小倉・平尾台です。JR日田英彦山線の石原町駅集合、観察センター、茶が床園地経由で貫山までの往復。いつ来ても気持ちのいいカルスト台地の草原。10月頃はススキの原になる。石原町駅から観察センターまでひまわりタクシーを使う予定。貫山を登らない草原歩きコースも考えたい。小倉のホテルは以前に使ったことのある小倉リーセントホテルを予定する。



5月14日（土）原鶴温泉下見

参加者5名：永沼、秋山、木下、天野、龍

OB 総会下見2回目は原鶴温泉。散策コースは朝倉三連水車から山田堰をみて原鶴温泉までのウォーキング。山田堰は先年アフガニスタンで凶弾にたおれ亡くなった中村哲医師が、灌漑用水のモデルとして何度も訪れた場所。江戸時代に造られた石堰。朝倉三連水車はまだ稼働期ではなく、6月17日に神事が水神社であり、その後堀川用水に水が流れ動き出す。10月中旬まで稼働。山田堰は雨の翌日で水量もあり迫力があつた。原鶴温泉では延命館で立ち寄り湯。ぬるめの湯で気持ち良かった。その後、秋山さんと私で総会での宿泊予定ホテル、原鶴グランドスカイホテルに行き話を聞く。リーズナブルな宿泊料金でマイクロバス送迎も可能なこと。総会の開催には十分な条件でした。



菱野三連水車



水神社からの山田堰



原鶴大橋から原鶴温泉へ



水神社

5月28日(土)～29日(日) 湯布院下見

参加者6名：前原、木下、山本、桑江、堀、龍

晴天にめぐまれて、無事に由布岳登山と「ゆふいん七色の風」の宿泊下見ができました。登山口から東峰まで2時間半の登りはかなりハードでした。普段からよく登っている人でないと足がつったり、下りで転倒したりとケガも考えられるので、健脚向けとして案内することにします。途中ミヤマキリシマが見頃になっていました。下りに寄った飯盛ヶ城(1067m)は湯布院盆地が一望できる眺めが良いところ。こちらへのハイキングがOB会向きと思える(登山口から高度差約300m)。鶴見岳ロープウェーは桑江さんに行ってもらい、別府湾の景色がとてもいいとの感想でした。



湯布院下見の2回目は日帰りで飯盛ヶ城ハイキング、鶴見岳ハイキング、由布院倶楽部へ行ってきました。飯盛ヶ城ハイキングでは、前回の下りに通った道と違う道から登ってしまい、途中はものすごい直登になってしまいました。帰りに道を確認したら、最初のところで左に行くべきでした。コースについては本番までに再度下見して、安全な方を選びます。鶴見岳ハイキングではロープウェーを使ったコースで、別府高原駅から鶴見山上駅まで標高差 800m を 10 分で登ります。ロープウェーの中からは別府湾の大パノラマが一望できました。由布院倶楽部では大分在住の加藤さんと合流し、ホテルの下見をしました。和室、洋室、宴会場、大浴場、会議室を見ました。部屋の広さも十分で、皆さん満足の様子でした。



飯盛ヶ城

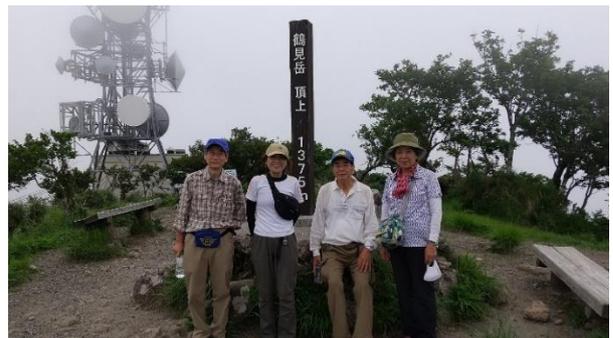
由布岳



飯盛ヶ城(1067m)山頂



登山口からの飯盛ヶ城



鶴見岳(1375m)山頂

OB 総会準備会

- 4月16日(土) 参加者7名：永沼、秋山、木下、山本、権藤、堀、龍
- 5月7日(土) 参加者7名：永沼、秋山、武富、木下、山本、堀、龍
- 5月21日(土) 参加者5名：永沼、秋山、山本、堀、龍
- 6月4日(土) 参加者9名：永沼、秋山、武富、木下、山本、堀、前田、天野、龍
- 6月11日(土) 参加者8名：永沼、秋山、武富、木下、山本、堀、天野、龍
- 6月25日(土) 参加者8名：永沼、秋山、武富、木下、山本、権藤、堀、龍

東京支部 活動報告（コロナ禍を振り返りつつ）

事務局 秋山高弘

東京支部では、コロナがいよいよまん延し始めた 2020 年 2 月 29 日の新年会（懇親会）以来、長らく活動停止を余儀なくされてきました。

OB通信

この間、本部 OB 会でも OB 総会が中止となりましたが、その代わり OB 通信は充実させたいという要請もあり、東京支部でも積極的な原稿募集を行いました。今までは自主的な応募に任せる状況でしたが、事務局より積極的に声をかけ、こんなテーマで書けませんかと一本釣りをお願いするなどは初めての事でした。ただ、そのおかげで 2020 年、2021 年共に東京支部からはかなりの原稿を出すことが出来、OB 通信の内容充実には寄与できたのではないかと考えています。

山行

2021 年年初に、城戸支部長より、「対策をしつつ山行を計画して、活力を生み出したい。山歩きでコロナに打ち勝つは如何でしょうか。」と挨拶があり、これを受けて 5 月 15 日に、JR 中央線沿線にある高畑山・倉岳山登山を計画しました。しかしながら東京都の緊急事態宣言延長を受け延期を余儀なくされました。緊急事態宣言が解除された後、延期していた登山を 11 月 21 日に行うことが出来ました。参加者は 11 名といつもより少なく、また当日は富士山もきれいには見えないお天気でしたが、久しぶりに顔を合わせての登山はやはりいいものだと感じました。ただしこの登山では途中 2 人がリタイアを余儀なくされ、メンバーの高齢化は着々と進みつつあること、それを考慮した山の選定、山行に拘らない活動の在り方も考えさせられるきっかけとなりました。

Zoom 飲み会

支部の小林さんの発案で、若手の Zoom 飲み会を 2021 年 4 月 17 日に実施しました。事務局は全く IT 弱者ですので、募集と連絡業務だけを担当し、小林さんが Zoom の設定、当日の進行をしてくださいました。集まるのかなどと不安でしたが、意外にも 11 名の若手が参加してくれました。中には、信州の塩尻や、三重県四日市市から、更には富士山麓のキャンプ場から参加するメンバーもいて、新たな可能性を感じた懇親会となりました。支部の方々に聞くとプライベートでは結構 WEB 飲み会をやっておられるようで、企画できない事務局の非力さを改めて感じた次第でした。

ワイナリー 葡萄収穫

支部のメンバーで、塩尻でワイナリーを営む幸西さんの、ブドウの収穫をお手伝いしました。それまでも個人的に手伝いに行っていた方もいたようですが、支部で呼びかけてのお手伝いは初めてでした。コロナの影響もあるため、今回は団体で行くのではなく、各ブドウの品種に合わせ収穫日が決まったところで幸西さんから連絡をいただき、参加できる人が個人で手伝いに行く形となりました。（2021 年 9～10 月）



暑気払い

2022 年 6 月 24 日に、本当に久しぶりに暑気払いを行いました。関東ではコロナ感染者数も減っており、時期的にはちょうどいいタイミング

（暑気払い） 2022. 6. 24）

でした。ただ飲食店の客足も戻っており、会場予約に苦労しました。当日は 16 名が集まり、コロナ下の近況を報告し、和気あいあいの会となりました。

今後の予定

秋に山行を企画する予定です。前回のリタイア発生を踏まえ、ハイキング組と山行組が最後に合流する形を検討しています。東京支部では、コロナと折り合いをつけながらとはなりますが、そろそろ活動を再開していきたいと考えています。

以上

山口支部活動報告

山口支部長 坂田信一

2022. 06. 06 19時、本部&山口支部役員会 Web ミーティング

新型コロナの影響で、2020、21 年度と山口支部のイベントは中止となってしまいましたが、感染状況が収束し始めたことを踏まえ、22 年度の活動を再開すべきか、ということについて、Web で意見交換を行いました。その結果、「世の中の状況を踏まえ、徐々に活動を再開してもいいのではないか、はじめは、さっと楽しんで、さっと解散するような活動からスタートするのが良い」との意見にまとまりました。



(本原稿を書いた7月下旬には、第7波の感染急拡大中で行先不透明な感じですが・・・。)

【新任挨拶 山口支部長 坂田信一 S57理】

2022 年4月より、山口支部長を拝命しました。コロナ禍で低調になった支部活動を少しでも活発化できればと思っています。今後、よろしくお願ひします。数年前、サイクリングで骨盤骨折をしました。現在、普通の生活はできていますが、パワーを使うような運動はしていません。これからは支部のイベントで体を強くしたいと思っています。

昨年、長年の会社勤めを終了しました。今後、会社に勤めることはしないつもりですが、社会との接点はなにか作りたと思っています。ハード、ソフト含めて、いろいろ作ることが好きなので、現在、テーブル作り、(コンピュータの)簡単なプログラムや活用事例の紹介作り等をやっています。蓄積が進めば、何らなの形で公開したいと思っています。取り組みはすごく本気なのですが、結果がどうなるかは時間がたってみないと分かりません。(写真は工房での一コマ)



【新任挨拶 新任幹事 川地 翔子】

本年度、山口支部の幹事となりました川地と申します。農学部を卒業後、現在は山口県で農業関係の仕事に携わっています。今年は例年にない空梅雨で、農業用水の水不足が喫緊の課題となっていました。7月の豪雨が不幸中の幸いとなり、水不足は緩和されて一安心しているところです。この原稿を書いている本日もですが、しばらくは10分も外に出たら汗が額に浮かぶような暑さが続きそうなので、文明の利器を適度に活用しながら今年の夏を乗り切りたいと思います。

夏といえば、先日、数年ぶりに宇部市で花火を見ることができました。久々に見た花火はとても色鮮やかで、何より「ドーン」という大きな音が体全体に響く感覚が何とも心地よく・・・夏のひとときを満喫することができました。コロナウイルスによる感染症は未だに予断を許さない状況ではありますが、活動の自粛によって以前より生活にメリハリがなくなっているため、感染症対策はしっかりと行った上で、四季折々の楽しみを満喫したいものです。

鳳翻会の活動も、コロナウイルスの影響で満足にできない状況が続いていますが、また皆さんと一緒に活動できる日を楽しみにしております。

(P.S. 挨拶と一緒に写真を！ということでしたが、写真を撮る習慣がなく、ようやく見つけたのは後姿の私でした。お顔も見せず大変失礼ではありますが、実物は会ってみてからの楽しみということでご容赦ください。)



【我が心の東鳳翻山】



【編集部よりお断り】

編集に際して、ページ内に収めるために、写真を縮小拡大しています。またフォントは全体バランスを考えて統一しました。また掲載順も、投稿順ではなく編集の都合上、順不同としています。どうぞ、ご了承下さい。

なお、修正依頼のあった場合を除き、文章そのものは、基本的に、お送りいただいた原稿そのままに掲載しています。



5. 同期会だより

秋吉台長者が森付近トレッキング・長門及び萩市内散策(5月24日～26日)

九州支部 昭和45年卒 経済 武富(伊藤)敏夫

福岡県添田町出身の熊谷さんが、令和2年9月関東より奥さまの故郷萩市に転居されました。私が萩市出身で福岡市に居住することになり、「お互い居住県を入れ替わったね」と話したことがあります。

令和2年10月姫路で開催した同期会で、次回は熊谷さんの居宅を見学するということになり、場所は萩市を中心に実施することになりました。今回は2泊3日のスケジュールで、現地の費用負担を軽減するため、OB会長田村君の会社所有の宿泊施設を、使用させていただくことにしました。

・5月24日(火)

新山口駅で姫路からの藤原さんを、秋芳洞バスセンターで萩からの熊谷さんをピックアップし、広島から参加の河内さん、黒小(山手)さん、妹尾(内田)さんと長者が森駐車場で合流しました。長者が森付近は県内合ワンなどの思い出の地ですが、往時の状況は良く思い出せません。長者が森駐車場～長者が森～良悟松～地獄台分岐～冠山～長者が森駐車場と、時計回りで2時間余りのトレッキングです。皆さんの体力を考慮し、予定していた地獄台と北山へは行きませんが、地獄台分岐では、草原の緑の中に無数の白い岩が映えるカルスト台の眺望に感嘆の声が上がりました。

カルストロードを通り、帰り水駐車場から帰り水を眼下に見ましたが、降りていく気力もありません。ワングル時代に経済4人組(中洲君、藤下君、山岡君、私)で山口から歩いてこの場所に来たことを思い出しましたが、既に藤下・山岡両君は故人となりました。

その後一路萩へ、熊谷さん宅の訪問です。奥さまの温かい出迎えを受け、コーヒー、アイスクリーム、ピワなどをご馳走になりました。給付金の誤送金で一躍有名になった阿武町の「鹿島の湯」入浴後、熊谷さん宅で夕食食材を積み込み、宿泊場所へ移動。

夕食では恒例の近況報告をしながら歓談し、第一日目が終了しました。

・5月25日(水)

元乃隅神社～角島大島・角島灯台～いそべの杜～香月美術館を見学するコースで、今日の長門での時間が過ぎて行きます。

萩から約1時間あまりで元乃隅神社に到着し、敷地内にある高さ約6mの大鳥居の賽銭箱に、お金を投げ入れるのですが入りません。龍宮の潮吹きといわれ冬季に多く見られる「噴潮現象」は、好天のため見る事ができずその場所を確認しました。

角島大橋手前の駐車場からは、コバルトブルーの海の上に浮かぶ角島大橋が素晴らしい景観を見せてくれます。角島へ渡って角島灯台の105段の階段を登り、今度は灯台の上からコバルトブルーの日本海の眺望です。角島灯台は130年以上前から、海の安全を守り続けている総御影石造りの洋式灯台で角島の顔といわれているそうです。



二・二六事件で決起した青年将校の一人「磯部浅一」が、長門の出身であることを初めて知りました。彼の慰霊碑と記念館は平成 11 年に完成し、それが「いそべの杜」と名付けられているところです。案内標識もなくひっそりとしたたたずまいの中にあります。

香月泰男はシベリアに抑留されていて、暗いイメージの作風が強く印象に残っていますが、香月美術館には、花の絵と彼が作成した手作りのおもちゃなどが展示してあり、それらの作品を通して彼のイメージが変わりました。道の駅「さんさん三見」に立ち寄り、宿泊場所へ移動しホテル美萩で入浴。

本日の夕食はバーベキューです。料理をする人、バーベキューの設備を作る人、炭をおこす人など、それぞれ夕食の準備におおわらわです。



山口市の「どうかん」でアルバイトの時一緒だった黒小(山手)さんのお友達阿武(吉本)さんと、田村君が今宵の歓談に駆けつけてくれました。

指月山の向こうに沈む夕日、日本海の漁火、菊が浜の潮騒の音など心地よい雰囲気の中、8 人での楽しい夕食が大いに盛り上がったことは言うまでもありません。

阿武(吉本)さんのご主人は萩高校 18 期の同期で、帰宅してアルバムで確認したところ顔は覚えており、さっそく黒小(山手)さんに連絡しました。思いがけない出会い

があるものですね。

・5月26日(木)

萩博物館～小田陶房～明倫学舎～道の駅シーマートの萩市内見学とお土産手配です。小田陶房では熊谷さんの紹介で萩焼の見学。また、約5年前まで小学校として使用していた明倫学舎を見学、学校の先生をされていた方は、明倫学舎の見学は興味深かったのではないのでしょうか。

私は明倫学舎で小学校の時の友人と再会。彼は森田進君と言い、小学校卒業後小郡へ転居、中学校は小郡中学、高校は山口高校とのことで、もしかすると、石津さん・大谷(右田)さん・久保さんも面識ある方ではないですか。

道の駅シーマートで昼食、お土産を購入して、今回の同期会のスケジュールはすべて終了、広島から参加の皆さんとここでお別れしました。ラインで参加の皆さんから安着の報があり、事故もなく同期会は無事終了しました。

今回の同期会では、萩市在住の熊谷さんと田村君に大変お世話になり、紙面をお借りしてお礼を申し上げます。特に熊谷さんの奥さまには、大勢が訪問したにもかかわらず歓待していただき、また、夕食の準備もしていただき、ありがとうございました。

私たちのワングル仲間も、既に5人が故人となりました。令和2年の同期会の折、皆さんに友を思いで文章を書いてもらったらという提案があり、同期の皆さんの協力を得て、令和2年12月「山大ワングル昭和45年卒同期会の回顧(友を思いで)」を、令和3年2月に「山大ワングル思い出のアルバム(笑顔がいっぱい、輝いていた青春)」を作成し、これまでの「来し方」を振り返ってみるところです。

同期会は平成22年から開始して13年となりますが、コロナ禍や諸般の事情から参加される方も限られてくるようになりました。藤原さんからこの会を可能な限り継続していきたいと申し出があり、来年は関東地区の皆さんも参加しやすい関西地区で実施することを申し合わせています。多くの方の参加をお待ちしています。

※()は旧姓

(令和4年6月12日作成)

6. エッセイ

森の貴婦人・オオヤマレンゲ

山口支部 野村英明 (旧姓・内田) (S47 文理学部)

「山の花」で一番好きなのは『オオヤマレンゲ』。「森の貴婦人」とも「天女花」とも呼ばれ、標高1200m以上の山に自生。樹高約4メートル内外の落葉低木。梅雨の間の六月頃に10cm前後の純白の花を咲かせます。花の中の淡赤色の雄しべが印象的。つぼみも純白の卵形です。



しだいに濃さをます緑の中、ぽっかりと浮きあがる純白の花に出会うと蒸し暑さも忘れず。九州では祖母、傾の縦走路、九重の獺師山や雨ヶ池越、大戸越などで見られますが、県内でも広島県境の寂地山、冠山の周辺などで、ちょっとがんばって歩けばこの「貴婦人」に会えます。

(以上は山口県の地方紙『山口民報』に寄稿したオオヤマレンゲの紹介)

昨年は広島県境の冠山と寂地山の自生地に行って、花はちょうど咲いていたのですが、汐原温泉からの沢沿いの道の山頂近くでブトの集団に襲われ、何の装備もなかったのでやられ放題、相棒が激しい蕁麻疹をおこしたので常備していた薬を飲んで、泣きそうになりながら逃げ帰りました。

これにこりて、今年が一番手軽な九重の獺師山に。ここは、久住高原スキー場のコースを通り、途中から沢に入るコースが整備されていて40分ほどの「観光コース」のように案内されています。(と言っても、大きな岩の間をたどる滑りやすいコースです。以前、ガイド付きで来ていた高齢者の方がすべて足を捻挫し、付き添われて引き返しているところに遭遇しました)

私はスキー場からのコースじゃなくて、いつも、牧の戸駐車場から300mほど下ったところにある獺師山登山口から山頂を経由して花のところまで下り、そこから、林の中を一周して戻って来るコースを歩きます。

(登山口正面の駐車スペースに車を停めます。この日も牧の戸駐車場はミヤマキリシマを目当ての登山者の車であふれていましたが、ここは楽に停められました)

登山口からは、ミヤマキリシマが散在する小さい灌木の中の気持ちのいい登山道をのんびり歩き、林を抜けると一気に視界が広がり、振り返ると少しピンクに染まった星生山や扇ヶ鼻などが目に入って来ます。草原の中の急登で合頭山への分岐を分けると草原の中を少し下りもう一度登り返すと獺師山山頂(1423m)。ゆっくり一時間くらいのコースで高齢者にはちょうどいい。



頂上で登山者から「今年は咲いてませんね。ちょっと早かったかな？」と声をかけられました。ちょっとがっかりして「そうだろうな」と思いながらも、「まあ何かあるだろ」と予定通り、そのまま、スキー場への下山道に入りました。草原を少し降りると、岩や柔らかい土の滑りやすい林の中の道になりシャクナゲの群落を過ぎると林道に降り立ちます。数本あるオオヤマレンゲの樹、そのうちの一本に満開を少し過ぎた純白の花が一輪。近くには卵形のつぼみも数個。「今年も会えてよかった」と、少し高齢の貴婦人との再会を喜びました。

林道を少し歩き、終点から林の中に入ると、なかなか変化のある、誰にも会わない静かな山道。分岐まで戻り、ミヤマキリシマのピンクの色が濃くなった山々を正面に眺めながらゆっくり下山し、温泉で汗を流して帰りました。

庭の花

九州支部 清家 和子 (S51 農)

我が家の庭には色々な花が季節を追って咲く。咲くと情景や人を思い出す花もある。

最初に咲くツツジはレンゲツツジである。これは札幌の友人の庭にあった木である。暑い九州でも頑張っ
て咲いている。大きくて鮮やかなオレンジの花は庭でとても存在感がある。この花を見ると北海道のさわや
かな風と青い空が思い出される。

赤紫のホタルブクロは広島で貰った花である。この花をくれたのは大阪でのママ友だった。偶然、広島で近くに住んでいて喜び合
ったものだ。あの頃は若くて元気だった。ホタルブクロは長年育て
ていると突然白い花も咲き始めて今では白の方が好きである。

イワチドリの小さくてピンクの花はとても可愛い。鉢からあふ
れるように咲く姿を見ると幸せになる。何人もの知人に株を分け
たが彼らもこの花を気に入って可愛がってくれているだろうか。

同窓生の葬儀で貰った富貴蘭が今年初めて花を咲かせた。風蘭
よりも少し繊細で高貴な香りのする花である。彼は三浪でクラス
でも長老的な存在であった。この花を見ると学生時代が思い出さ
れる。彼もこの花の香りを楽しんだのだろうか。

ハナシノブやヒゴタイの花が咲くと九重や阿蘇の涼しくて広い
草原を思い出す。ハナシノブは種から育てたが沢山の苗ができ、家
の東西南北で咲いている。さて、福岡の庭で暑い夏を越せるのはど
れだろうか。

夏の間中、小さな黄色の花を咲かせている宿根コスモスは余市
で貰ったものだ。プルーン狩りの帰りにイクラ丼をご馳走になっ
た知人の庭にあった花。彼女の手作りのイクラの醤油漬けを山わ
さびをのせて皆でほおぼった。あの美味しさは忘れられない。

最近の一番のお気に入りには月見草である。最初、花壇に植えてお
いたら花を見ないうちに朝、ピンク色になってしぼんでいた。鉢に
植えて、デッキの上の見えるところにおくと、夕方少しずつ蕾が白
っぽくふくらみ、7時前後に真っ白な可愛い花が開いた。凛として
清楚な花は見ていると心が豊かになるようだ。毎晩、開くのが待ち
遠しい。知人はあまりの可愛さに家の中で眺めていて、とうとう枯
らしてしまった。

太宰治は富士には月見草がよく似合うと言った。しかし黄金色の
月見草の花ひとつとあるので、この白い花ではないようだ。富士に
黄色い月見草の情景は、私には開聞岳に菜の花の映像の方が印象
的だ。

今、夜来香(イエライシャン)の蕾がついた。去年貰ったので、初
めてである。どんな花が咲いてどんな香りがするのか楽しみにし
ている。



富貴蘭



月見草

瀬戸内海島めぐりサイクリングに思いをはせて 山口支部 坂田信一 (S57 理)



瀬戸内海に点在する島々には明るく眩しいくらいのイメージがあります。この島々の雰囲気を楽しめるにはサイクリングがお勧めです。コースは、「しまなみ海道

②」、「大崎上島⑥」、「とびしま海道④」、「江田島(かきしま海道)⑤」、「周防大島③」、「上関①⑦」と続きます。これらのほとんどを、坂田(S57 理)、八谷(S54 文理)、田原(S57 工)、三國(S55 工)の4人で制覇しました(順番は上写真右から左)。上の地図にサイクリングのGPSデータを示しました(自転車を運んだ車のデータも含む)。印刷では少しわかりにくいのは恐縮ですが黒太線(Web版では赤太線)です。この線は我々の行動と記憶の点が並んだ貴重な軌跡です。これらを眺めながら、言い表すことのできない感覚を覚えます。最近、瀬戸内海の島々でのサイクリングはブームなので、「僕は、ずっと前にやってしまいました。先見性あるでしょう!」と自画自賛することは可能ですが、単純に楽しい記憶だけではないのです。「最後の仕上げであった上関の先端の長島からの帰り(⑦)に私が骨盤を折るという大事故をしたためなんとなく未完の制覇になってしまいました。でも、現在の私は、ほぼ元通りの体にまで回復し元気に生活していますので、「楽しかったね」と振り返ることは可能なのですが、それでも残る虚しさは、八谷さんがもういないと感じることです。今、振り返ると、高い橋の上から眼下に広がる渦巻く海面をみんなで眺めて雑談したこと。瀬戸内海の潮待ち港として歴史を留める御手洗の街を散策して島のミカンジュースをおいしく飲んだこと、かきしま海道では、旧海軍兵学校前の観光協会にあった無料提供のお茶を飲みながら雑談したこと等、日和ってはしゃいでいたことを楽しく思い起こします。

私が、事故地点まで行って、そこから自転車を漕いでゴールを目指すことは気持ち的にないので、このシリーズの完全制覇はもうありません。そして、八谷さんとサイクリングに行くことも、もう絶対にありません。残念無念。7月8日は八谷さんの命日になります。八谷さんと一緒にめぐった、瀬戸内海島めぐりサイクリングの記憶に思いをはせて八谷さんへの鎮魂にしたいと思いました。



飯豊・朝日連峰は東北のアルプスの異名を持ち、山容が大きく万年雪・雪渓もある。

当時使用した国土地理院 5 万分の 1 地図の裏側に詳細な行程の実績を記録しており、焼増し写真を保管している。鳳翔会のホームページの部誌に掲載の「あるきの記」第 7 号などを参考として編集した。

メンバー (B パーティー) は PL・筆者、SL・山本充二君 (経済学部 3 年生)、小田二郎君 (経済学部 2 年生)、波木建一君 (工学部 1 年生)、山村基久君 (工学部 1 年生)。予定ではもう 1 名いたが、参加していない。他には A~E (女子) パーティー。1970 年 (昭和 45 年) 7 月 25 日から全パーティーが瑠璃光寺の本堂に 1 泊しプレ合宿の後、7 月 26 日 20:56 山口駅を出発。

7 月 28 日晴 : 8:15 新津駅着。11:14 山都駅着。バスに乗り、12:05 一ノ木着。昼食。13:40 発のバスで 14:05 川入に着。バス代 100 円。14:20 登山開始。当時のフンゲル行程の常態は 90 分歩き、10 分休息の繰り返し。ブナ林の坂道を上り、17:10 横峰小屋 1334m。テン場代 200 円、6 人用テントを張り、ラジウス (灯油コンロ) を使い、大きな鍋で米飯を炊き、夕食。20:00 就寝。

7 月 29 日晴 : 3:00 起床。6:20 三国岳 1644m 山頂。残雪の急斜面を通過。10:53 感動の飯豊山 2105m 山頂。イワウメなどが咲きほこる稜線を下り、駒形山 2038m。雪渓の雪にスキンミルクをかけてかき氷もどきを作って、一服の涼。天狗岳 1979m。烏帽子岳 2018m。15:50 与四郎ノ池。当時の料理はじゃがいもや玉ねぎ、にんじんなどを煮た後にカレーの元を入れ米飯にかけたカレーライスが多かった。19:00 就寝。



【飯豊山 2105m 登頂記念】

7 月 30 日朝霧・晴・時々霧 : 2:00 起床。5:15 北股岳・2025m。11:13 飯豊山荘。山口大学工学部ワンダーフォーゲル部を 3 年前に卒業した石川先輩に会う。12:10 旭又滝。滝壺近くにテントを張り、シュラフや汗臭くなった登山服などを洗った。18:40 就寝。



【旭又滝】

7 月 31 日 : 4:00 出発。バスに乗り、玉川口。汽車で 7:56 小国駅着。乗車券代 40 円。朝日連峰を縦走した D パーティーと一緒にになり、米や野菜など、スイカと灯油 4ℓ を買い出し。筆者と田辺豊 PL が郵便局で本部パーティーの井上実智夫 PL に電話し、計画通りを連絡。郵便局員がどこの大学ですかに田辺君が山大です。筆者が山口大学ですと言うと、こちら辺りで山大と言うと山形大学のことです。14:58 荒川沿いの道を進み、一本丸太の吊橋。重いキスリング (横長の帆布製リュック) を背負っており、危険なので、靴をはいたまま渡渉。吊橋・白布橋、渡渉。懐中電灯 (当時は誰もヘッドランプなし) で照らしながら進み、またも一本丸太の吊橋、渡渉。20:30 角櫓小屋・テン場。料理を作り、スイカを食べ、0:58 就寝。

8 月 1 日曇・霧 : 7:00 起床。朝日連峰を縦走した C パーティーが来た。肥塚 PL (経済学部 3 年生) の下、5 名に 4 年生の木村先輩が加わり 6 名。蛇引清水 1050m。今朝の 7:00 起床は 6 時間しか寝ていないので、大休憩。15:20 大朝日岳 1870m 山頂。15:55 金玉水。テントを張り、19:50 就寝。

8 月 2 日曇・時々雨・霧 : 7:00 起床。ラジオの天気予報から、チン (沈)。月山縦走の後、朝日連峰を縦走中の A パーティーが雨の中を来た。池富士 PL (農学部 3 年生)、中森 SL (文理学部 3 年生)、他 6 名。19:20、前日霧の中だった大朝日岳へピストン。

8 月 3 日 : 2:10 起床。4:14 から大朝日岳へ再度、ピストン。ご来光を迎えた。竜門山 1687m。寒江山 1695m。11:02 以東岳 1771m。360 度の展望。12:55 大鳥小屋のテン場。魚釣りを試みたが、一匹もかからず。



【咲き乱れる花々の道で】



8 月 4 日曇 : 2:00 起床。大鳥登山口に下山。11:15 山形県鶴岡駅。牛乳 1 本 24 円を飲む。湯野浜駅。海水浴、皆泳ぎは得意でないよう。瀬戸内海の島 (広島県【大朝日岳 1870m 登頂記念】御調郡向島東村、現尾道市向東町) で育った筆者も日本海の大波にたじたじ。海水浴場でテント泊。

8 月 5 日曇 : 3:00 起床。18:23 福島県の磐梯山の南にある押立温泉の全パーティー集中地に。

8 月 6 日曇時々小雨 : 19:30 キャンプファイヤー開始。各パーティー毎の寸劇など。22:30 終了。

8 月 7 日晴 : 9:00 過ぎ、夏合宿解散。

空き家だった実家に移り住むために8年前にリノベーション（大規模改築）した時に、一坪弱の窓のない納戸のようなスペースが出来ました。買うばかりで、ほとんど読まないまま溜まる一方だった本を収納する場所として活用することにしました。長年、憧れていた書庫の誕生です。

書庫と言っても一坪にも満たない広さで、縦1、6m横1、8mの小さな部屋です。4台の書棚を置くといっぱいになりました。お気に入りの本、大事にしたい本などから棚に並べていきました。もちろん、すべての本が書庫に入る訳はなく、多くは今まで通り部屋の本箱とクローゼットや倉庫の棚などに並べています。

小さな部屋の本棚の間に体を横滑りさせて入り込む状態ですが、本に埋もれている感覚がたまりません。本（紙）の匂いにも包まれます。本は情報を得る手段だけではなく、本は本そのものとして価値があるとある人がいていました。そのとおりだと思います。棚の背表紙を眺めているだけで、本の方から何かしら語りかけてくるようで、そのことで心が満たされてきます。その中で時々本を選んで取り出して、つまみ読みをします。自分が好きで買った本ばかりだから、はずれはありません。

家にある本で最後まで読み切ったのは全体の一割にも満たないと思います。作家の高橋源一郎さんは「本は無理して最後まで読まなくてよい」と言っています。その言葉に救われます。

しかし何かのきっかけで一気に読み進むことがあります。最近手に取った本は、「攻撃ヘリ ハインドを撃て」。ジェラルド・シーモア。ハヤカワ文庫。1985年刊と「70年代ノート」—ニューミュージックの時代—ユーマン・陽水・みゆき……。田家秀樹。毎日新聞社。2011年刊です。前者は、ロシアのウクライナ侵攻のニュースから、1979年のソ連のアフガニスタン侵攻を思い出したからです。後者はユーマン（松任谷由美）がデビューして今年が50周年にあたり、テレビや新聞で特集が組まれていたからです。どちらも読了しました。

書棚に並んだ本を見て、学生時代から今までの読書傾向や興味・関心の移り変わりが分かって、自分のことながらおもしろく感じています。現代日本文学、SF、児童文学、ファンタジーなどの小説が多いのは頷けますが、意外と冊数が揃っているのが、ことば（日本語）に関する本です。日本語に関心を持っているのだなと気づかされます。何冊かあげると、井上ひさし「私家版日本語文法」「本の枕草紙」「二ホン語日記」。丸谷才一「日本語のために」。岩淵悦太郎「語源散策」。外山滋比古「ことばの力」などです。

小さな部屋にこもって自分の城にする、隠れ家にするという関心や願望を男はもっているのではないだろうか。軽四輪キャンピングカーの狭い車内の生活や、昔のテレビ「名犬ラッシー」や映画「スタンド・バイ・ミー」で見た、木の上の家に私は憧れます。我が家の庭の木を眺めては、枝の間に板を渡し腰掛ける程度のスペースを作り、その上にビニルシートを掛けて屋根にしたら、火の見やぐらのような木の上の家ができるのではと夢見ています。



今を去ること約一世紀半前の文久3年(1863)8月18日、京都において三條実美ら尊王攘夷派の急進的な公卿たちは、公武合体派の薩摩、会津両藩の巻き返しによって失脚した。世に言う「8.18の政変」である。その結果、7人の公家たちは久坂玄瑞らとともに長州に下って再挙を計ることとなった。彼らは徳山經由で防府・三田尻英雲荘に入り、10月16日には山口市大内地区(筆者の居住地)にある興隆寺内の眞光院に落ち着いた。しかし、その後すぐに実美のみは湯田温泉高田の草刈亭へ移居している。

以上はいわゆる七卿落ちの一連の流れだが、元治元年(1864)12月15日、高杉晋作が長府功山寺において俗論派に対して決起し、三條らに「これより、長州男児の肝っ玉をお見せ致す」と直言するまでの1年と少しの間、彼らの遊行の中で興味深いものについて述べてみたい。彼らは頻りに尊攘派の志士たちと会ってはいるものの、結構色々な場面で公卿らしく華やかなる供応を当然の如く受け、よく遊んでいる。所詮公卿たちは政治的には無能だったと言えよう。明確に記録に残る彼らの「お遊び」を以下に列挙してみると、

- ① 1863年10月16日 防府・三田尻の茶臼山で200人を動員して狸、狐、兎狩りを楽しむ。
- ② 1863年11月11日 萩越ヶ浜で遊んだ後、明神池にて遊ぶ。その後城内花ノ江別邸にて供応。
- ③ 1863年11月19日 長門の大寧寺の三條公頼の墓参り。
- ④ 1864年2月2日 小郡の林光井關で鯉捕り見学、酒を飲んで鶴の肉も賞味する。
- ⑤ 1864年9月27日 大内長野村にて松茸狩り。雨にたたられて宿にてお酒。また時期不明なるも外郎の福田屋に立ち寄った際、背後の象頭山で松茸狩り、福田屋主人が紅梅の盆栽を献じた際に以下の歌を残している。「あさひさす山路ののきの梅の花くれないにこそ匂ひいてけれ」

これ以外にも何かと遊んではお酒を飲んでいるが、その中でも特筆に値するのはやはり鳳翔山登山だろう。長州藩が正に存亡の危機を迎えている時に山に登ろうなどと発想すること自体、正にお公卿さんと言えるだろう。因みに高杉晋作は東鳳翔山を讚える漢詩を残しているが、彼はそこに登るほどの暇人ではなかった。

「回天実記」(三條の警護役・土佐藩土土方久元の日記)によれば、元治元年(1864)9月21日に三條実美らが鳳翔山に登ったのは確かだ。そこには「三條公、東久世、四條殿御供にて志喜郡鳳翔山と申す高山に登る。眺望絶奇、四国九州眼中にあり」と記されている。「志喜郡」とは「吉敷郡」のことであり、「鳳翔山」とは「鳳山」のことである。このことは「七卿芳跡」(作間鴻東著1925)や「趣味の山口」(防長史談会編1931)にも明記してある。そして不確かなるも、彼らを山に案内したのは、下関で客死した七卿の一人錦小路卿の霊廟のある湯田の赤妻山近くの庄屋・岩本忠兵衛であると言われている。彼は三條公の信頼が厚く、松茸狩りや大寧寺へも同行している人物である。この時にどのようなコースを辿ったかはどの書物も記していないので、当時の諸条件を勘案し、明治35年の地形図を参考にして推測してみよう。実は、書物では東鳳翔なのか西鳳翔なのかも触れていない。今では不人気の西鳳翔山だが、当時はアンテナがあるはずもなく、「趣味の山口」によれば「山頂は平坦地で岩石が露出し眺望はすこぶる良い」とあり、また三條の居所であった何遠亭から見通すことが出来たから、可能性がないわけではない。しかし登ったのは高杉晋作が漢詩に詠い、「遠望する容姿が美しい」と言われた東鳳翔山だったと思いたい。登山ルートは湯田から穂積峠を越えて中尾に入り、そこから東進して障子峠に到り、峠からは尾根沿いに延びる道を通って直接山頂に到ったものと推定する。三條公は山頂からの眺めを以下のように詠っている。「鳳翔の山をいかにと人とはば かくとこたへむ言の葉もがな」
東鳳翔山山頂からの眺めは、1世紀半を経ても相も変わらず見事としか言いようがない。



7. 近況報告

江戸時代の遺産 筑後川・山田堰と大石堰

九州支部 秋山 邦雄 (S42 経済)

今年の総会は湯布院で開催することが決まっていますが、決定にあたっては幾つかの候補地を下見に行きました。その一つに私が提案した「山田堰」がありました。提案の際頭に浮かんでいたのは、ペシャワール会代表中村哲医師のことでした。アフガニスタンに灌漑用水を築造するにあたり、「山田堰」をモデルにされたことを聞いていたからです。

5月14日、九州支部の永沼、龍、木下、天野会員と私の5人で、数日来降り続いた雨があがった快晴の日「筑後川山田堰ウォーキング」にて出かけました。大分道・朝倉ICにほど近い「菱野三連水車」に集合し、筑後川右岸の「堀川用水」を遡上して取水口の「山田堰」に至り、「原鶴温泉」まで歩く気持ちの良いコースでした。

スタート地点の「菱野三連水車」は「山田堰」から取水した「堀川用水」の水を小高い田園に汲み上げる揚水車として1789年に設置されたものです。水圧に負けない直径4m前後の巨大な3つの水車は、毎年6月17日から10月までダイナミックに汲み上げ続けています。今回は稼働前で見ることができず残念でした。水車は5年ごとに作り替えられ、その技術も継承されているそうです。



菱野三連水車

現地を歩いているうちに奇妙な気分になりました。以前、九州支部の4人で、筑後国生葉郡の五庄屋の物語が書かれた帚木蓬生の「水神」に触発されてこの近くを歩いたことを思い出したのです。(その時のことは「鳳翮 2013年8月号」に本園会員が「菜の花ウォーキング『水神』の舞台をあるく」として、投稿していますので、OB会ホームページを参照ください)

2万5千分の1の地図を開いて驚きました。五庄屋の中で、「大石・長野用水」実現のために主体的に尽力した庄屋・山下助左衛門の「高田村」が「菱野三連水車」の真南の筑後川対岸だと気が付いたらからです。後日、資料を辿ると「大石・長野用水」は、この「堀川用水」が寛文の大旱魃の1663年福岡藩によって着工された翌年の1664年に、久留米藩によって造られていました。取水口は「山田堰」の5km上流の地点です。まったく同じ時期に、そして至近距離に二つの歴史的な遺産が造られていたのです。私にはこのことが、今まで判っていませんでした。迂闊でした。資料のせいにははいけないのですが、今でも、「山田堰」と「大石堰」はそれぞれ別個の「物語」のように作られていて、相互の関係を著した資料は見つかりません。「筑前」と「筑後」の違いからでしょうか。

「堀川用水」を遡っていくと、取水口の上に祀られている「水神社」から「山田堰」が一望できます。数日来の雨で増水した筑後川の水が、大小の石が敷き詰められた石畳の上を水しぶきを上げながら流れ下っている様子は壮観でした。この堰は水圧を抑えるため流れに約20度の角度をもって、筑後川の急流を取水口へと導いています。この絶妙な角度は、幾度も見舞われた大洪



水の度に、流された大小の石の痕跡を確かめ、試行錯誤を重ねて来た結果だと土木の専門家から聞いたことがあります。原形は1790年地元の庄屋古賀百工によって築かれ、ほぼ当時の形を留めているそうです。

「水神社」から少し上流の展望広場に中村哲医師の記念碑が建てられています。中村哲医師は、アフガニスタンの人達の支援に取り組んでいる中で「貧困の原因の一つは水だ」として灌漑用水の築造を思い立ち、日本全国の用水堰を調査の末に辿り着いたのが、唯一斜めの石積堰である「山田堰」です。至近距離にある「大石堰」についても研究されたと思いますが、「直角の堰は壊れる。近代的土木機械の出現以前になかば手作りで築造され、長年にわたり先人達が試行錯誤を重ねてきた「山田堰」の姿こそ、アフガニスタンの荒れた土地に導入するに相応しいモデルだ」と判断し、研究を重ね、2003年から7年の歳月をかけて2010年に全長25.2kmの用水路を完成させています。



中村哲医師の記念碑

その後もアフガニスタンの人達と共に延長に取り組み、世界各地に「山田堰モデル」を発信していた2019年12月、何者かの凶弾に倒れてしまわれました。誠に痛恨の極みです。

「山田堰」の少し下流の恵蘇宿橋を筑後川左岸に渡ると、目の前に「山田堰」を目にする絶景ポイントに着きます。石積の造形の上を真っ白いしぶきをあげて流れる水の動きに目をやり、激しくぶつかり合う水流の大音響に包まれていると、先人達が積み重ねてこられたご苦労が思われ、熱いものがこみ上げてきます。

「山田堰」と「大石堰」は、筑後川が阿蘇外輪山や九重山系に源を発し、山間部から筑紫平野へ移る地の右岸と左岸に僅か5kmの至近距離で、江戸時代の同じ時期に造られています。形こそ違っていますが、大旱魃に苦しめられた人達の手によって、技術の粋を重ね、人の和を集めて完成したものです。今日まで幾多の大洪水を乗り越えて守り継がれてきた江戸時代の遺産です。機会があったら現地を訪ねてください。原鶴温泉の美肌の湯も癒してくれるでしょう。



水神社対岸からの山田堰

2022年6月1日(水)、新型コロナウイルス禍、約1か月後に3歳となる孫娘と娘、それに女房と一緒に東京都八王子にある高尾山・599mに登頂した。孫はこれが産まれて初めての登山。

8:23 自宅発。孫はママ抱っこと言って歩かず。東葉高速鉄道・北習志野駅 8:43 発。JR 中央線、11:23 京王線高尾山口駅着。徒歩約7分でケーブルカー清滝駅・210m へ。しかし、この間も孫はどうしても抱っこと言って歩かず。

当初の計画では清滝駅横から高尾山6号路(森と水コース:3.3km・約1時間30分)を歩いて登るとしてしたが、パパに似たのだらう歳の割には大きい孫を娘が抱っこするようになっては、途中にコースを移る道がないので変更し、ケーブルカーに乗り清滝駅から高尾山駅・480m へ。高尾山駅から直ぐ近くが広場となっておりベンチとテーブルが【11:45 ケーブルカーのトンネル】あり、展望もある。そこに座り遠くの山々や東京都心のビル群など眺めながら、娘が作ったむすび・卵焼き・煮野菜の弁当とみかんで昼食。12:30 頃、相変わらず抱っこされ、薬王院への表参道(1号路)を進む。12:34 たこ杉。12:39 薬王院の山門・浄心門。



浄心門の横から3号路(高尾山の植物コース:2.4km・約1時間)に入る。孫に「さー【12:18 都心のビル群】歩いて高尾山登山だよ」と言うと、[案ずるよりも産むが易い]でスタスタと歩きだし、時々走りもする。娘はその後に付くが、筆者と女房は遅れてしまう。3号路は緑が濃いカシ類などの常緑照葉樹が多く、なだらかな細い山道である。筆者は高尾山にはこれまでに4~5回登っているが、3号路を歩くのは初めて。静寂の中の沢に架かる木橋を何度も渡る。道を下って来る人に2回出会ったが、追い越して上る人はいない。



【12:42 リュックを背に】

【12:52 木橋を渡る】

後半、山頂近くになると急な上りや石の階段となった。孫はリュックに入れていた大好きなアンパンマンの人形を手に持ち、リュックを娘に持たせる。14:07 かしき谷園地に至る。ベンチが数ヶ所ある広場となっている。爺ちゃん・筆者は少し休息をしたいのだが、疲れもみせず山頂へと。薬王院よりの道と合流(3号路終点)し、平坦な砂利道を進む。山頂近くのトイレで孫は[おむつ]を取り替え、いよいよ山頂となった時、孫は筆者のステッキを持つ登山姿を真似したくなったのだらう。ステッキを貸してと一本を持って上るのには思わず吹き出した。



14:38 遂に高尾山・599m 登頂に成功。【14:00 アンパンマンを手に階段】約1時間30分の3号路を約1時間で登った。全く頼もしい孫。将来は山ガール。14:40 孫は国土地理院三角点に座って、したり顔。大見晴台から袖平山・大室山・三ツ峠山などを望むが、富士山は残念ながら雲の中。



【14:40 三角点に座る】

【14:55 高尾山登頂記念真/孫は女の子なのに腹を】

15:00 頃下山開始。1号路・薬王院参道を下る。山を下ると言うのが分かったのか、孫は歩かず娘に抱っこ。娘は、重い孫を抱っこして長時間歩くのは大変だからだろう、どんどん下って行く。筆者は足の膝関節軟骨摩耗のため、特に下りは難渋する。大急ぎで写真撮影しながら、何とか後を追いかけた。

今回の登山では、元気な孫と一緒に真に筆者も元気を得た。孫は登山楽しかったかと問うと「うん、楽しかった。面白かった」と言う。秋には赤い紅葉が綺麗なので、また登るかと言くと「うん、登る」と喜ばしてくれる。



【15:20 華麗な薬王院の本社(正式名称:飯縄権現堂)】

近況報告

東京支部 高田哲生 (S49年工学部卒)

昨年10月で70歳になりました。2年前、このOB通信に投稿した内容と、ほぼ変わらない生活を送っています。当時流行し始めたコロナが、この時期まで続くとは思ってもみませんでした。そして今や、第7波に入ってしまった。

収まりかけたころは、映画館や旅行、飲み会などに出掛け、活動を再開し始めたところでしたが、またブレーキがかかってしまいそうです。ワクチンを4度も打つなんてことも想定外でした。

とは言え、限られた余生。このままじっとしているわけにはいきません。私は、体調はなんとか維持しているので、ほぼ毎日予定を入れ、忙しく、楽しく動き回っています。例えば、毎週月曜と金曜にはグランドゴルフ、火曜と日曜は卓球、水曜は囲碁、月2回の折紙教室、畑へは毎日通い、そして月1回程度、小学生を対象とした科学体験ボランティアなど「教養と教育(今日用・今日行く)」を実践しています。野菜作りはもう10年以上になりますが、良いところは、しゃがんだり立ったりして運動にもなるし、同じ農場の人と親しく会話したり、何より、収穫した野菜を食べる楽しみがあります。

オススメの趣味は?と問われれば、私は「折紙」を推したいと思います。折紙は、いつでも、どこでも、手軽に、ひとりでも楽しめます。やってみると実に奥深く、どんなものでも出来ることに驚かされます。指先を使うことは、脳の活性化にもつながります。私は、外出時にはいつも折紙を携帯し、病院の待ち時間や、電車に乗っている時間などを利用して、折紙をしています。また仲間が集まった時などには、作品を見せ、欲しい人には差し上げたりして、和やかな雰囲気作りに役立てています。

写真は、お気に入り作品の一部です。市販の折紙の半分または4分の1のサイズの紙で折ったものです。

2022年7月某日

夫婦鶴



アジサイ



もみじ鶴



近況報告

九州支部 桑江 保子 (S54 文理)

足の故障で1か月半運動を止められました。

登山はもとより、毎朝のウォーキングはできず、ジムにも行かれず、おうち時間ががぜん増えました。

この間ハマったのが「数独」と「ハングル」です。

数独は、新聞に出る問題は必ず解いて、応募があれば回答メールします。でも、景品はもちろん一度も当たりません。

ハングルは、記憶力の衰えを実感しつつ、なんとか基本を覚えました。今まで暗号にしか見えなかった文字が時には読めるようになって、ちょっと嬉しい。

身体のトレーニングは全くダメで体重計にのりたくないけれど、頭のトレーニングは少しできたかなと思う今日この頃です。

飛べない渡り鳥 (WV)

九州支部 昭和41年卒 加藤正治

昨年本誌で、変形性股関節症の為手術し ADL (日常生活の動作) や QOL (生活の質) が低下したことを報告した。あれからコロナ禍のまた1年、都合2年半も海外は勿論、県外さえ出れず、山口 (宇部) や広島のご先祖様のお墓参りも失礼している。長年勤めたすべての職務を辞めて、やっと念願の「自遊人」となったが、まさに、自宅マンション籠城状態である。自ずと、リハビリ (と言っても軽い自主トレ) 以外、終日 TV と読書三昧、終活として旅の記録執筆 (HP 会員からの近況報告「旅鳥逍遥」執筆・掲載中) である。

TV もリモコンを ON にし続けていると、健康・病気に関して、医療・美容知識や健康器具・サプリメント (食品) のコマーシャル (ネット通販) がやたらと多い。その中で、私もついに、頻りに宣伝される「クレバーケーン」という名の杖を購入した。確かに先端が砂利道でも固定し安定できる三又足を持ち、把手・ランプ・警報付きの、その名の通り「賢い杖」の優れたものである。転倒防止に片杖を突くと三本足と言うことになり、道を行く電動車椅子の老輩がスマートに追い抜いていくのが悔しいが、こちらはまだ自力で大地を踏ん張り進んでいるのだぞと空を仰ぐ。いずれ三途の川は、WV の矜持にかけても二本足で歩こうとリハビリしている。幸い牛歩ではあるが快復に向かっており、いずれ OB 仲間の後をついていければ幸甚である。
(2022/5 友引)。

近況報告

山口支部 齊藤昌彦

昨年3月末に定年退職を迎えました。再雇用は考えず、無職の身になりました。

何にも肩書きの無い自分が素直に自由だと思いました。浪人生活も経験していますが、その時は、これからどうなるだろうという不安と焦燥があり、そのプレッシャーで自分に随分制約をかけたことを思うと、ずっと楽です。浪人時代は、運動不足で体重が増えましたが、今回はグータラ生活でやはり体重が増えました。

そうは言っても、何かしようと今後の生活のために資格を取ることにしました。そこは無職の身なので、お金がかけられずに職業訓練校に通うことにしました。職業訓練校で電気工事士の資格を取るため、半年間、30名の方と勉強することになりました。当然、私が最高齢でした。10代から60歳までの幅広い年齢層の中で楽しく学ぶことができました。10月に筆記試験、12月に技能試験がありました。試験には、悪い思い出しかないのですが、何とか合格し、2月4日に第二種電気工事士免状を山口県からいただきました。これで家の電気工事は一通りできます。

訓練校の修了前に電気工事士としての就職先を探しましたが、高齢者で初心者ということでなかなか見つかりませんでした。そんな時に、かつての職場で産休代替が必要となり、声がかかりました。そんなことで今、その職場で働いています。産休から育休を取られているので、しばらくこの職場で働くことになりそうです。

フルタイムの非正規職員です。非正規の厳しさを実感しています。年休も少なく、自由に遊びに行けるほどの収入もありませんが、好きな仕事ができる環境はありがたいです。

ところで、この原稿を書いていると、「にっぽん百岳山」で東鳳山をやっていました。萩往還語部の会から古谷さんが出演され、驚きました。最後に出演者が「山口は山の入り口」と言われており、改めて、山に登ってみようと思いました。気になる体重を落とすためにも、まず東鳳山に登ってみたいと思います。

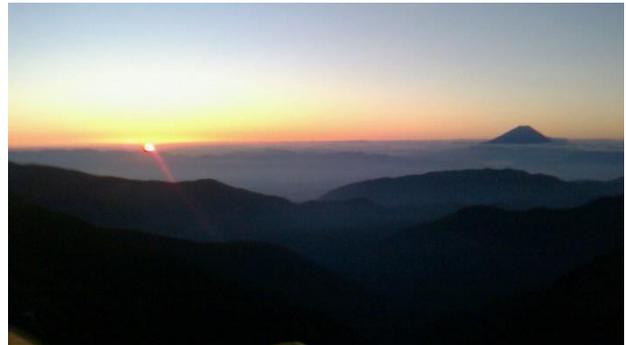
南アルプスに焦がれて

九州支部 堀 剛 (S57 経済)

2015年11月に鳳凰三山の一つ薬師岳に青木鉱泉から登ったのが、大学現役以来35年ぶりの南アルプスでした。青木鉱泉から薬師岳まで標高差1,690㍎、コースタイム5時間20分(6.5本)の登りはきつく、やはり南アルプスはちょっと違うなと体感しつつ、山頂から見える北岳をはじめとする絶景に魅了され、もう一度あの山々を歩きたいと思ったものでした。以来、2018年11月までの約3年間に計11回、22日間南アルプスをうろついていました。

2016年10月、妻と娘を連れて甲斐駒ヶ岳を一泊二日で目指した時のことです。二日目に甲斐駒ヶ岳を目指す予定でしたが、この日は嵐の予報でした。行くかどうか迷ったのですが高山の風速20㍎がどういふものか経験しようということになり撤退覚悟で行きました。やはり二日目は予報通りの嵐となり、せめて前衛の駒津峰までは行こうとしたのですが、その直前、森林限界を超えてハイマツ帯に変わったところで強風に煽られて前に進めず、駒津峰の標識が数十㍎むこうに見えているところで撤退しました。この経験と、冬の季節風風速15㍎の予報の中で金峰山に登頂できた経験から、予報で風速が15㍎を超える高山には行かないことにしました。尚、甲斐駒ヶ岳には翌年7月に三人でリベンジに成功し、この時は翌日に仙丈ヶ岳にも登ることができました。また、9月には単独で黒戸尾根を往復しました。

2017年9月には白峰三山を縦走しました。北岳・間ノ岳間の3,000㍎の縦走路を御来光に染まる富士山を眺めながら歩くことができました。間ノ岳山頂に到達すると初めて南アルプス南部の絶景が広がり塩見・悪沢・赤石・聖岳の3,000㍎峰が奥行き深く連なる光景が目に見えます。ここから一旦濃鳥小屋まで下り、西濃鳥岳に登り返したところで振り返りますと、あまりにも雄大な間ノ岳の姿に驚かされました。



東京ではサラリーマンをやりながら週末を中心に登山をしていたため、東京からのアプローチが長く、行程も長い南アルプス南部に行く機会が無い中、唯一2017年11月に聖岳に登りました。この時、一つの山を往復するだけで2泊3日かかり、やはり南部は山が奥深く雄大で険しいと実感しました。言い方を変えますと、南アルプスの醍醐味は南部にありということになり南部縦走が私の目標になったのですが、実現することなく2019年4月に福岡に移ったのでした。以来、南アルプス南部は地図を眺めるだけで、同居する父の介護とコロナ禍の環境の中、九州の山を旺盛に登りつつ3年が経ちました。

6月に64歳になり「おっ！来年は高齢者の仲間入りか〜！！」などと思い、体力もいつまでもあるものではありませんし、父も介護施設への入居が決まりそうなので、来年の夏に南部を縦走する計画を今から具体化して準備を進めようと考えています。

問題の体力ですが、今はテント泊装備で一日8時間歩いて翌日も8時間歩ける体力を残せる(一晩でできるだけ疲労を回復させる)ことを目安にしています。方法は、週1~2回低山でもいいから山に行く。そして年に数回、前記の目安を維持できているか確認登山をしています。祖母山・傾山縦走コースや祖母山・障子岩尾根コース、脊振山地縦走



などで試しています。九州の山は標高が高くはないですが、それでも例えば祖母山・障子岩尾根コースですと登りの累積標高は 1,900 ㍎を超え、コースタイムは 1 日目が 9 時間以上になります。できるだけ体を疲れさせないためにストックを 1 本持って、ゆっくり、小又で歩きます。ストックが無いと片足でバランスを保つために足の筋肉を余計に使いますが、ストックが 1 本あれば 2 点支持ができますのでバランスが取り易く安全で、足の筋肉の疲れも少なくなります。この歩き方は低山でも同じです。

これから高齢になるにつれ、一日 8 時間で歩ける行程が短くなるだろうとの予測は容易です。遭難回避のために、どの程度短くなっているかを注意深く見る必要があると思います。今はガイドマップのコースタイムの 9 割程で歩きますが、しだいに遅くなり、30 年後(現在の父の年齢に到達した頃)の私の縦走路は自宅から西公園展望台(標高 50 ㍎)に登り、福岡城天守台跡(標高 36 ㍎)を回って自宅に戻るコースなのかなと。テントは担がずに・・・。ビールは持つと思います・・・。保冷剤入れて・・・。

近況報告

関西支部 昭和 48 年 3 月 経済学部卒 上田 功

3 年振りの OB 総会・懇親会が本年 10 月に大分・湯布院で開催されることが決まり、今から楽しみにしています。

さて、昨年 6 月の前回の投稿からの 1 年ですが、8 月 1 日～5 日、単独行で北穂高岳に出かけ、⇒横尾山荘⇒北穂高小屋連泊⇒徳沢園⇒ と泊まりを重ね、標高 3,100m の北穂高小屋の眺望テラスで、地元塩尻産赤ワイン”北穂”フルボトルを側らに知己の故人に献杯、周りの山々や空を眺めて日がな 1 日を過ごしてきました。神戸への帰途の 5 日には、幸西義治氏(8 期下)が塩尻で起業した「幸西ワイナリー」を表敬訪問し、粋な同氏を微力ながら応援させて頂きました。

11 月 18 日～19 日、同期の面々、森本、中島、三木夫妻、伊藤(2 期下)、小生の計 6 名で、小田と仁木は都合により欠席、彦根駅に集合して湖北の地を訪ねました。国宝彦根城巡りと竹生島参拝を済ませて散会。今秋 11 月に南紀勝浦、那智の旅での再会を予定しています。

12 月 10 日、奈良三輪山に登拝、関西 100 名山を達成しました。三輪山は、神の山の呼称に相応しく白装束の正装に裸足で登降する信者の方々とも行き交い、小生も厳かな心持ちに包まれました。下山後、電車を乗り継いで高野山へ向かい、宿坊・恵光院に宿泊。翌 11 日に奥の院で四国 88 ヶ所の御礼参りと納経帳と御朱印の締めを終了。神仏混淆の雰囲気味わい深く触れることの出来た 2 日間でした。そんなこんなで、何とか無事に過ごしていますが、新型コロナウィルス禍とロシアのウクライナ侵攻が 1 日も早く収まって、世の中が落ち着くよう願ってやみません。

私の近況報告

山口支部 古谷眞之助 (S52 経済学部)

相変わらず、ライダーと萩往還ガイドに熱中していますが、コロナでそれもままなりません。そこで今は自宅でも簡単にできるイラストをかなり描いています。今回の OB 通信の表紙にも採用いただきました。今年 4 月には萩往還三十六景と題して地元ミニコミ紙に掲載してきたものを中心に山口菜香亭でイラスト展を開催しました。個展はこれで 4 回目となります。

このイラスト展は 5 日間の展示でしたが、ワングル OB の方にも多くおいいただき、最終的には予想をはるかに上回る 398 名の方にご来場いただきました。



特に日曜日には 100 名もの方に、まさに押し寄せるといっていただき、対応におおわらわでした。ミニコミ誌に連載されていたためか、いつも見ていましたよ、とおっしゃる方が多く、また、36 回分の切り抜きをお持ちになった方もおられてとても嬉しく思った次第です。おいでいただいた方には、抽選でイラスト原画 6 点、絵葉書セット 2、萩往還イラスト入り手ぬぐい 3 本をプレゼントしました。地元紙がそれを記事にしてくれたことも来場者増加に寄与したようです。展示したイラストは鳳翔会 HP にも掲載していますので、ご覧下さい。引き続き、石州街道イラストを描き続けています。写真は最終日の模様です。

近況報告

東京支部 福永俊美 S47年工学部卒

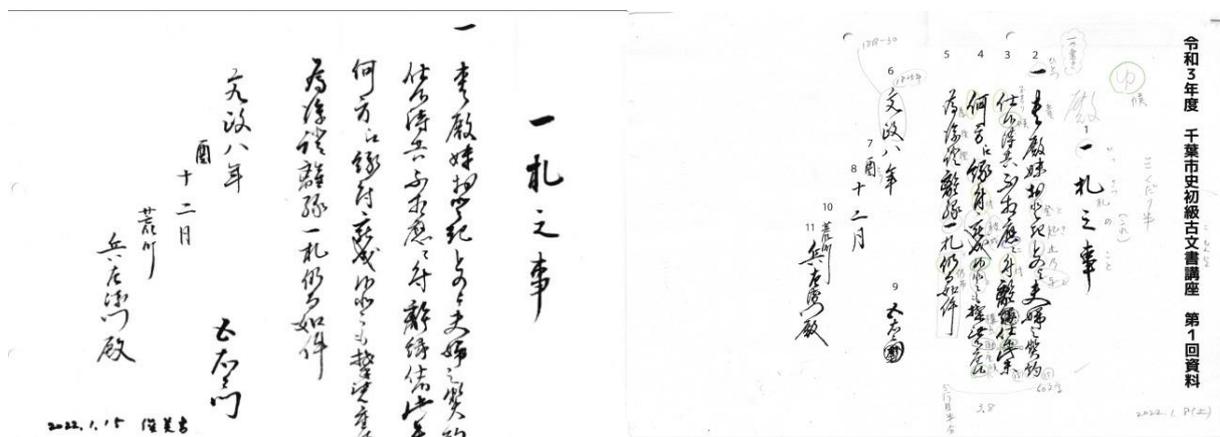
tel : 090-8030-9572 mail:fukunaga-toshimi1011@jcom.zaq.ne.jp

年初の市政便りに「初級古文書講座」の案内があり、毎日サンデーの年金生活者の暇潰しにと応募した。その後何事にも三日坊主の自分に6回受講はどうかとも考えてみたが、なにせ無料だったので駄目なら途中でやめれば良いと思い参加することにした。教室は千葉市立郷土博物館1階の講座室だった。この博物館は千葉城にあり、今年のNHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」に千葉氏が登場するとの事で1階にその特別展時もあった。

第1回目の資料は、初心者向けである短い文章で本文は四行半、それに原稿用紙1枚を渡された。一行ずつまずは解かり易い文字から、原稿用紙に書き込む事から始まった。次に「ぎょうにんべん」の字を探した。また年号から江戸時代末期の文であり、文中に「候 そろろう」が頻りにでてくるのでその略字体を教えてもらい、何か所にあるか探す作業をし、何行目の何番目にあるか、受講者に答えてもらう。とても読めない難しい文字は先生がホワイトボードに書く、などの作業をしながら原稿用紙を埋めて行きやがて完成した。その後回答文を配布され、本文とその読み下し文を見て授業内容を再確認した。1回目の内容は、商家の主が嫁の兄に送ったいわゆる離縁状であった。離縁はするが、その後“誰とでも結婚して良い”と書いてあり、この文字が無いと再婚出来ないとの事だった。2時間の講座で途中10分程の休憩があったが、くずし文字の読み方、書き方、内容や江戸時代の文化などの説明があり、楽しい時間を過ごせた。

その後、2回/月講座のペースで進み1月~3月の6回講座は全て参加した。講師は出版社の小代渉氏であり、彼は千葉大学大学院時代にこの博物館でバイトをしていた経歴の人だった。このため2回以降は地元千葉の庄屋の古文書を読み解いて行き、江戸時代の農村生活に直に触れた気分になり、コロナ禍を有意義に過ごすことが出来た。

2022.7.22



8. 現役報告

経済学部3年 主将 坂本 新

2022年7月現在、山口大学学生は対面で講義を受けることが多くなり、昨年に比べ制約の少ない大学生活を送ることができています。部活動に関しても、昨年度よりも規制が緩和され、感染症対策を徹底することを条件に宿泊を伴う活動を行うこともできるようになりました。このような情勢の変化により、当ワンダーフォーゲル部の活動も、昨年に比べて自由に行えるようになりました。2021年度は県外での合宿が禁止されていたこともあり、海浜合宿や夏合宿、春合宿などほとんどの行事を行うことができませんでしたが、今年は3年ぶりに海浜合宿と木曾駒ヶ岳での夏合宿の開催が決定しました。少しずつではありますがコロナウイルス蔓延前のような活動をまた行えることを大変嬉しく思います。

今年の活動については、感染症対策に留意しつつ人数や時間の制限なく活動できています。登山に関しては、2年生を主体として日帰り登山を計画しています。山口県内の大平山や竜王山、亀山といった山に登ったほか、広島県の吉和冠山に登っています。また、2022年3月に卒業された先輩方には、卒業式当日に色紙と記念品、水筒を贈呈させていただきました。

新入生に関しても、新歓フェスティバルでの勧誘の結果、ありがたいことに去年を超える17名の新入部員が入部しています。

今年からはだんだんとコロナウイルスが蔓延する前のような部活動を行えるようになっていきます。これから行われる予定の合宿についても安全に配慮しつつ、行っていききたいと思います。



【新歓登山 大平山山頂】

2022年度活動

【登山】

- 大平山（山口・防府市）
- 吉和冠山（広島・廿日市市）
- 竜王山・鋤尖山・鬼ヶ城（山口・下関市）
- 亀山～陶ヶ山（山口・山口市）

【合宿】（予定）

- 海浜合宿（山口・萩市）
- 夏合宿（長野・木曾駒ヶ岳）

2022年6月現在の部員の構成

部員の構成 (令和4年6月時点) 単位：人

後世種目	項目	男子	女子	計
学年別男女 構成	1回生（1年生）	14	3	17
	2回生（2年生）	10	2	12
	3回生（3年生）	5	0	5
	4回生（4年生）	9	4	13
	計	38	9	47
学部別男女 構成	工学部	14	3	17
	経済学部	14	2	16
	理学部	3	0	3
	農学部	5	0	5
	人文学部	1	1	2
	教育学部	1	1	2
	国際総合科学部	0	2	2
	計	38	9	47
活動場所別 男女構成	宇部キャンパス	9	1	10
	山口キャンパス (内工学部1年生)	29	8	37 (7)
	計	38	9	47

令和4年執行部体制

主将	坂本 新	経済学部3年生
次期予定主将	木村 幸誠	経済学部2年生
OB会事務局長	籾 広二	経済学部4年生

9. 事務局長挨拶

人文学部4年 籾広二

今年度より事務局長を務めます。人文学部4年の籾広二です。どうぞよろしくお願いいたします。

はじめにワンダーフォーゲル部の入部状況について報告いたします。今年は、制限なく新入生勧誘イベントの実施もあり、勧誘が行いやすくなっていたことから多くの学生が入部してくれました。7月時点で新入生は男子14名、女子3名の計17名が新たに入部をしています。—昨年からコロナウイルスにより活動の自粛、制限が始まりましたが、ありがたいことに年を追うごとに新入生の入部が増えているという状況です。

また、今年から夏合宿や海浜合宿が解禁されたことにより、コロナ以前の活動に戻りつつあるため上回生でもできるだけサポートをしていきたいと考えております。

今回事務局長挨拶を執筆するにあたって、今までの私たちの活動が多くのOBの方々の協力の元成り立っているということを、改めて実感致しました。これからもご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、今後の活動にも精一杯取り組んでいく所存ですので、温かいご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。最後になりますが、今回、こういったご報告の場を設けていただいたOB会の皆様に深く感謝申し上げます。

10. OB の皆さまへのお願い

副会長 三國 彰

(1) OB会費の納入について

会費有効年を経過して会費未納の場合は自然脱会となりますので、会費の支払いはお忘れなきようお願い申し上げます。脱会になりますと、以後OB通信の発送等OB会からの連絡が途絶えることとなりますのでご注意ください。

会費有効年は、皆さまの宛名書きに記載していますが、今一度会費有効年を確認され、もし、相違している場合は、会長または事務局までお問い合わせ願います。

【OB会費の納入状況についての問い合わせ先】

次頁・会長宛お問い合わせ下さい。

会費有効年に応じて、鳳翺会新規(再)加入のご案内、会費納入について(お願い)、お知らせ、入会申込書、会則、郵便局払込取扱票を同封しています。新規(再)加入及び入会を継続される場合は、お手数ですが、同封の郵便局払込取扱票にて下記へ納入くださいますようお願いいたします。同封文書は次のようになっていますのでご確認ください。

ア 新規加入の皆さま及びOB会費未納のため2021年までに会員資格を喪失された皆さま

鳳翺会新規(再)加入のご案内、入会申込書、会則、郵便局払込取扱票

新規(再)加入を希望される場合は、郵便局振込とともに、入会申込書を送付いただくか、必要事項を会長宛てメールにてご連絡ください。

【送付先】

郵便番号753-0841 住所 山口県山口市吉田1677-1 山口大学体育会内
宛先 山口大学ワンダーフォーゲル部

イ 会費有効年が2022年の皆さま

会費納入について(お願い)、郵便局払込取扱票

口座記号番号 01530-0-16050

加入者 山口大学ワンダーフォーゲル部鳳翺会

個人会員年会費 2,000円(夫婦会員年会費 3,000円)

※年会費は、複数年分を一括納入することもできます。一括納入の場合は振込金額を単年会費の複数年倍としてください。個人会員の場合、年会費を1,000円の端数で納入されないようお願いいたします。新規または再度会費を納入される場合は、会費の有効年は納入年からとして取り扱い致します。

(2) OB通信の送付について

OB通信は本来会員の皆さまだけに送付することになっています。

(3) OB通信・鳳翺会HPへの寄稿について

事務局では、皆さまからのOB通信の寄稿を常時受け付けています。掲載を希望される場合は、会長宛原稿を提出ください。なお、OB通信の発行の準備の都合上、原稿の提出期限は次のとおりお願いいたします。鳳翺会HPは随時受付ます。なお、OB通信の内容等についてご意見がありましたら、会長までお寄せ下さい。 8月発行分7月中旬まで 12月発行分 11月中旬まで

(4) 転居先連絡のお願いについて

OBの皆さまの住所確認については万全を期していますが、OB通信の発送の都度、数通が転居先不明で返送されてきます。その後、お知り合いの方に転居先を確認し再送していますが、OB通信の送付が遅れる原因になっています。転勤等で住所を移転された場合は、速やかに会長までご連絡願います。

以上

11. 2022年本部・支部役員連絡先

・鳳翔会会長

田村 伊正（工・昭和53年卒）

〒758-00525 山口県萩市土原63-3

携帯 090-3177-3876（家電 0838-25-5775）

E-mail tamurako@kyouwagrp.jp

・鳳翔会副会長

三國 彰（工・昭和55年卒）

田原 宏（工・昭和57年卒）

・鳳翔会幹事

田中 秀平（農・昭和47年卒） 石川 忠（教育・昭和49年卒）

古谷 眞之助（経済・昭和52年卒） 坂田 信一（理・昭和57年卒）

浅野哲郎（工・昭和61年卒） 齊藤 昌彦（農・昭和60年卒） ※兼会計担当

・鳳翔会事務局長

籠 浩二（人文学部・4回生）

連絡先〒753-0841 山口県山口市吉田1677-1 山口大学体育会内ワンダーフォーゲル部

・会計監査

平野 展康（経済・昭和59年卒） 日野 耕二（経済・昭和58年卒）

（東京支部）

支部長 城戸 賢嗣（経済・昭和49年卒）

副支部長 高田 哲生（工・昭和49年卒）

事務局長 秋山 高弘（経済・昭和53年卒）

（関西支部）

支部長 池田 純（工・昭和51年卒）

（山口支部）

支部長 坂田 信一（理・昭和57年卒）

支部幹事 徳田 宏子（教育・昭和57年卒）

支部幹事 川地 翔子（農・平成26年卒）

（九州支部）

名誉支部長 永沼 嗣朗（経済・昭和39年卒）

支部長 龍 純二（文理・昭和50年卒）

事務局長 天野 雅紀（経済・昭和61年卒）

【編集後記】 このOB通信の編集を開始した頃は、コロナの状況も治まっている状況でしたが、皆様方から原稿をいただく頃にはコロナが猛威を振るい、先行き不透明な状況です。しかし、行動制限は以前よりは緩和状態にあるため、きっと、秋のOB総会には九州支部の皆様が一生懸命に準備をしておられますので、開催されると信じております。この度は、私の編集準備等が悪く、原稿ももっと皆様方からいただきたかったのですが、私からの働きかけが不足していたように思えます。また、冬号もありますので、今後の皆様方からの原稿を期待しております。

編集長 田原 宏

